

同原文における日本語翻訳の差異

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-05-31 キーワード: 翻訳, 差異, 読者層, 文体, 人物像 作成者: 牧田, 理沙 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00050896

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



同原文における日本語翻訳の差異

経済学類4年 牧田 理沙¹

<概要>

近年、外国文学に興味を持つ人は多くなっている。しかし、多くの人は原文ではなく、翻訳者によって日本語訳された外国文学を読んでいる。人気のある作品では、原文が何人もの翻訳者によって訳されていることもある。それらを比較すると、原文は同じでも、いくつかの差異があり、一定のパターンが認められる。先行研究によって、翻訳者は想定読者層、文体、人物像の3点に配慮して翻訳を行っていることが分かった。本稿では、原文の翻訳にはそれら3点が関連していると仮定し、4冊の『星の王子さま』の日本語翻訳を用いて検証した。想定読者層では学習指導要領を参考に、訳文中の漢字の難解さ、ルビの有無によって、どの学年を想定しているか、大人向けか子供向けかを分析した。次に文体では地の文を比較し、敬体か常体か、また「硬い文体」か「柔らかい文体」かを分類した。人物像では登場人物の呼称を表にし、それぞれの翻訳での人物像の特徴を示した。結果として、文体については一部不一致なところもあったが、3点全てにおいて、原文の翻訳が関連する差異パターンがあると言えた。以上から、仮説は成り立っているといえる。

<キーワード>

翻訳、差異、読者層、文体、人物像

¹ bienvenue_afetr.135klisteer@docomo.ne.jp

<目次>

0. はじめに

1. 先行研究

2. 問題設定

3. 分析方法

3.1. 想定読者層の差異の分析方法

3.2. 文体の差異の分析方法

3.3. 登場人物の人物像の差異の分析方法

4. 想定読者層の差異

4.1. 山崎庸一郎（2005）の分析

4.2. 永嶋恵子訳（2013）の分析

4.3. 三野博司訳（2005）の分析

4.4. 内藤濯訳（1993）の分析

4.5. 想定読者層の差異の分析まとめ

5. 文体の差異

6. 登場人物の人間像の差異

6.1. 山崎庸一郎（2005）の人称表現

6.2. 永嶋恵子訳（2013）の人称表現

6.3. 三野博司訳（2005）の人称表現

6.4. 内藤濯訳（1993）の人称表現

6.5. 登場人物の人間像の差異の分析まとめ

7. おわりに

参考文献

0. はじめに

近年、外国文学に興味を持つ人が多くなったように思う。『ハリー・ポッター』は世界的ベストセラーであり、日本語にも翻訳されている。この作品は誰でも知っている外国作品であろう。他にも『ナルニア国物語』、『モモ』などの児童文学から始まり、ヘルマン・ヘッセの『車輪の下』・『少年の日の思い出』やカフカの『変身』、ドストエフスキーの『罪と罰』などの世界的文学に至るまで多様な作品があり、そういった外国作品を読んだことのない人は恐らくいないだろう。しかし、その原書を読んだことがあるという人はあまりいないのではないだろうか。多くの人々は翻訳者によって日本語訳された外国文学を読んでいるのである。ところで、ある一つの外国文学がいくつもの翻訳者によって翻訳されていることがある。それらは同じ原文を訳したものであるが、それらを比べてみると、いくつかの差異があるようだ。しかしながら、そのような差異は、ある一定のパターンが認められる。本稿では、そのパターンを明らかにする。

1. 先行研究

同じ原文の翻訳における差異のパターンについては、稲垣（2016）において触れられている。引用が多くなるが、紹介しておく。まず、翻訳作品の想定読者層をどこに設定するかによって差異が生じる。それについて稲垣（2016）は『子どもの本』には、子どもの年齢すなわち学年に応じて厳密な制限がある。小学校の各学年で学習する漢字が学習指導要領の『学年別漢字配当表』で決まっており、この範囲でしか訳語を選べないし、訳分も相応の難易度にしなくてはならない。」（p. 106）と述べている一方で、「おとなの本」については、「使いうる語彙、日本語表現にまったく制限がない。」（p. 106）と述べている。

次に、文体である地の文については「内藤濯訳および『星の王子さま』新訳二十種類弱のうち、概ね、この作品を『子どもの本』とする翻訳者は物語の本文は『です』『ます』調で、『おとなの本』とする翻訳者は『だ』『である』調を採用している。」（稲垣, 2016, p. 107）、また稲垣（2016）は次のようにも述べている。「『硬い文体』では漢語、したがって漢字が多く、『柔らかい文体』では和語、したがって平仮名が多く使用される。『硬い文体』では、西欧語文で多用される複文がある程度許容され、『柔らかい文体』では日本語として自然で分かりやすい重文、短文がもっぱら用いられる。」（pp. 107-108）

続いて登場人物の人間像の差異について、稲垣（2016）は「登場人物の特質、すなわち、性別、年齢、国籍、出自、教育程度・階層・職業などの社会的状況、そして、何よりも性格を事細かに把握し、人物像をしっかりと頭の中に描いておかなければなら」（p. 108）ず、「登場人物が話す言葉、会話表現はその人物像を彷彿とさせる、的確なものであり、物語中で首尾一貫している必要がある。」（p. 108）と定義している。稲垣（2016）の『星の王子さま』の翻訳における人称表現に関する記述では、「各々の登場人物の人間像と王子さまとの関係・立場の違いなどを考慮して呼び方を決めている。」としている。例として、「王子さまの星にどこからともなく種が飛んできて、ある日突然芽吹いたバラの花」が挙げられ、お高くとまって、わがままで王子さまを散々でこずらせた上品ぶった態度から、自分のことを「わたくし」、相手の王子さまのことを「あなた」と言わせており、王子さまにもバラに対して「あなた」と言わせるようにしている。これにより、稲垣（2016）は、貴族同士の会話のような雰囲気や幾分醸し出されると述べている。また、地球にやってくる途中で出会う第二の惑星のうぬぼれ屋と第四の惑星の実業家には、王子さまとの社

会的な距離を日本語表現として考慮し、王子さまに「あなた」と呼ばせている。第六の惑星の地理学者にはある程度高齢であることから、自分のことを「わし」とし、王子さまのことを「おまえ」と呼ばせる等がある。

2. 問題設定

稲垣 (2016) によれば、翻訳者は想定読者層、文体、人物像に配慮しながら、翻訳を行っている。実際には、それらの観点は翻訳においてどのような形で表れるのだろうか。

本研究においては、稲垣 (2016) を参考に、想定読者層、文体、人物像 (人称表現) の3点の観点から翻訳を分析する。原文の翻訳には、これらの3点の観点が関連していると仮定する。その仮説を複数の翻訳がなされている『星の王子さま』の日本語翻訳本を用いて検証を行う。

分析に利用したのは次のものである。山崎庸一郎訳²、永嶋恵子訳³、三野博司訳⁴、内藤濯訳⁵の4冊の『星の王子さま』を用いる。

3. 分析方法

3.1. 想定読者層の差異の分析方法

想定読者層の分析では、上記の4冊の『星の王子さま』を翻訳したものを用い、文部科学省が定める学習指導要領を参考に、それぞれの訳文中における漢字の難解さ、ルビの有無によって、どの学年を想定したものか、大人向けか子供向けかを分析する。なお、ここでの大人向けの本の基準として、高等学校学習指導要領において、高校時点でほとんどの常用漢字を読めるように規定されている⁶ことから、高校生以上を想定読者層として設定しているものを、大人向けの本とする。また、本研究においては各本文における文字のスタイルの違いは考慮しないこととする。

基準となる文部科学省による学習指導要領によると、小学校では学年別漢字配当表⁷の該当学年までに配当されている漢字を読む⁸こと、語彙については「第1学年及び第2学年では、身近なことを表す語句の量を増し、第3学年及び第4学年では、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、第5学年及び第6学年では、思考に関わる語句の量を増しとする」⁹と定めている。次

² サン＝テグジュペリ (2005) 『小さな王子さま』山崎庸一郎訳. みすず書房.

³ サン＝テグジュペリ (2013) 『星の王子さま』永嶋恵子訳. KK ロングセラーズ.

⁴ サン＝テグジュペリ (2005) 『星の王子さま』三野博司訳. 論創社.

⁵ サン＝テグジュペリ (1993) 『星の王子さま』内藤濯訳. 岩波書店.

⁶ 文部科学省 (2009) 「高等学校学習指導要領」,
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf>,
p. 12.

⁷ 文部科学省「学習指導要領「生きる力」—別表 学年別漢字配当表」,
<http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku/001.htm>.
(※現在は改訂により、第4学年に都道府県名に用いる漢字25字が配当され、それに伴い32字の配当学年の移行がなされている。詳しくは脚注4, p.18参照)

⁸ 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領」,
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf>.

⁹ 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領解説 国語編」,
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_2.pdf>,
p. 18.

に中学校では、「漢字の読みの指導については、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。」¹⁰と規定している。この定義によれば、想定読者層が小学生を対象としたものにおいては学年別漢字配当表に準じればいいことになるが、中学校では小学校のように学習する漢字が明確に規定されているわけでないため、中学生を対象としたものと大人（高校生以上）を対象としたものの基準が曖昧になってしまう。そのため、文部科学省が定めている小中高の学習指導要領に沿って基準付けされている、公益財団法人日本漢字能力検定協会による日本漢字検定の中学校在学から中学校卒業レベル¹¹である4級～3級の漢字¹²に基づき、中学生を対象とした想定読者層であるかを判断する。さらに、中学校では言葉遣いについても「敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について学習することを意図している。第2学年では、敬語の働きについて体系的に理解し使うこと、第3学年では、敬語を含めて、広く相手や場に応じた言葉遣いについて理解し、適切に使うことを示している」¹³とし定義している。そこで、日常的に使う丁寧語を除き、尊敬語・謙譲語においては場面の状況を踏まえながら、中学生以上を対象としたものとするにしよう。

3.2. 文体の差異の分析方法

文体の差異の分析では、翻訳における地の文を比較する。そこで「です」「ます」調である敬体か、「だ」「である」調である常体かによって、「子どもの本」なのか「大人の本」として訳されているのかを判断する。また、文体における文章中の漢字が多く、複文が多く使われていた場合は「硬い文体」、文章中に平仮名が多く、重文・短文が多く使われていた場合は「柔らかい文体」として分類する。

3.3. 登場人物の人間像の差異の分析方法

登場人物の人間像の差異の分析では、それぞれの本が登場人物をどう呼んでいるのかを分析し、表にまとめる。呼称は会話文の呼び方のみで、地の文は除外する。次に、人称表現を比較し、登場人物の人間像の特徴の差異を訳本ごとに明らかにする。

4. 想定読者層の差異

分析の結果が下の表である。この表は中学校で学ぶ常用漢字、中学校で学ぶ漢字のルビの有無、その漢字をあえて平仮名にしたと思われるもの、中学校以外で学ぶ常用漢字、その漢字のルビの有無、中学校で学ぶ敬語の有無から、その翻訳本の想定読者層を分析したものである。分析においては、各学年で学ぶ常用漢字においてルビがなかった場合は、その学年以上を想定読者層として設定していると解釈した。また、本によって、一度ルビをつけられた漢字が、もう一度使われ

¹⁰ 文部科学省（2017）「中学校学習指導要領解説 国語編」，
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/fieldfile/2017/10/13/1387018_2.pdf>，
p. 17.

¹¹ 日本漢字能力検定協会「漢検の概要—各級の出題内容と審査基準」，
<<http://www.kanken.or.jp/kanken/outline/degree.html>>

¹² 日本漢字能力検定協会「日本漢字能力検定級別漢字表」，
<http://www.kanken.or.jp/kanken/outline/data/outline_degree_national_list.pdf>，pp. 8-11.

¹³ 同上，p. 18

たときは、ルビをつけないものがあつた。その場合は、読者もその漢字を読むことができるとして、ルビ有りとみなした。

	山崎庸一郎訳	永嶋恵子訳	三野博司訳	内藤濯訳
中学校で学ぶ 常用漢字	歳、猷、込、描、 獲、眠、鉛、怖、 帽、孤、壊、遂、 離、遭、驚、雷、 撃、坊、劣、疲、 繰、彼、仰、雄、 慢、審、丈、偶、 慮、沈、詳、黙、 綱、妙、軒、惑、 違、刑、触、雅、 尾、肝、叫、抛、 肩、齡、越、誘、 賢、伸、突、拔、 恐、遅、裂、屈、 怠、没、尽、恨、 邪、瞬、魔、恥、 赦、怒、慰、腕、 涙、飾、咲、奇、 跡、輝、粧、髪、 嘆、介、覆、逃、 渡、払、噴、穩、 匹、儀、威、慈、 曆、恵、偉、飽、 誉、称、陰、暇、 醉、摘、抽、滑、 端、迎、削、滅、 寝、舞、与、占、 詰、掛、腰、脚、 頼、乾、抱、伏、 振、寂、獵、浮、 吹、辛、娘、踊、 贈、傾、揺、響、 粒、滴、躍、丘、 隠、掘、握、縁、 甘、締、騒、壁、	歳、獲、込、眠、 鉛、帽、疲、描、 違、彼、孤、漂、 離、影、雷、驚、 瀬、狭、寝、況、 綱、逃、丈、軒、 巨、惑、刑、咲、 肩、辛、憶、透、 伸、汚、抜、恐、 滅、摘、沈、没、 脂、墜、恥、髪、 忙、怒、闕、珍、 覆、涙、邪、魔、 突、悩、輝、襲、 吹、潜、渡、掃、 噴、控、匹、誇、 劍、紫、叫、腰、 被、偉、抗、頼、 屈、賢、积、拍、 削、抛、踊、舞、 狂、暇、幅、占、 到、乾、硬、介、 抱、普、振、狩、 獵、捕、慢、換、 揺、粒、滴、丘、 埋、奥、腕、滑、 鶏、黙、浮、壁、 砲、撃、凍、耐、 掛、踏、倒	歳、猷、描、獲、 眠、巡、鉛、怖、 帽、励、胆、疲、 彼、孤、壊、離、 遭、驚、雷、掲、 魅、乏、途、迫、 恐、邪、魔、耐、 審、輝、丈、誇、 叫、妙、劍、即、 奇、詳、坊、黙、 憂、軒、惑、違、 齡、飾、抛、肩、 扱、恨、徐、惨、 尽、摘、抜、荒、 遅、裂、劬、怠、 慮、隣、慰、沈、 没、突、握、汚、 恥、赦、怒、髪、 咲、滅、抱、揺、 涙、跡、昇、嘆、 虚、鮮、悩、衝、 傾、振、舞、逃、 透、潜、渡、払、 噴、煙、穩、慢、 麗、腰、儀、珍、 威、慎、恒、恵、 曆、刑、与、拍、 促、控、飽、杯、 忙、暇、騒、屈、 遣、柄、偉、迎、 醉、簿、削、勘、 踊、吐、占、浪、 影、環、浮、腕、 触、粹、峰、越、 仰、避、介、獵、	眠、拍、綱、惑、 桃、抛、刑、寝、 抜、突、裂、沈、 没、髪、涙、咲、 腰、吹、覆、恥、 逃、渡、爆、煙、 威、御、曆、疲、 賢、儉、赦、匹、 肩、伏、縁、鉛、 舞、占、幅、環、 腕、砲、狩、趣、 勘、暇、雷、粒、 繕、滴、憶、埋、 倒

	眺、劍、鼓、凍、耐、脱、踏、稻、倒		狩、匹、互、隱、誘、娘、贈、錠、幅、滴、憶、伏、丘、寂、敷、埋、奥、房、炎、吹、掘、滑、綱、鶏、縁、響、震、聰、偶、壁、請、奪、驅、擊、哀、凍、脱、踏、瞬、倒	
ルビの有無	雄、曆、替以外なし (ルビ 2.0%)	なし (ルビ 0%)	なし：歳、怖、疲、彼、荒、傾、逃、渡、刑、与、暇、削、互、奥、倒 (ルビ 91.7%)	全てあり (ルビ 100%)
中学校以外の常用漢字	挿、呑、嚙、傑、漠、筏、肖、渴、謎、嫌、寛、拒、杭、駄、燕、鉢、煉、瓦、蔑、灌、寧、椅、棘、懸、醜、蒼、謙、遜、爪、嘘、咳、煤、涼、緋、溜、挨、拶、瓶、鍵、燈、拭、稽、斎、涸、壯、眺、厭、戻、膝、銃、絆、轍、飢、襪、揃、桶、唇、蜜、骸、鎌、拳、淵、鈴、咬、殻、鏽、紐	闕、漠、傑、渴、霧、杭、嫌、眺、椅、叩、紳、爪、戻、崇、挨、拶、蔑、斎、銃、愉、嬉、頬、鈴、嚙、壁	僕、挿、呑、蛇、嚙、碎、傑、諦、聡、漠、筏、只、肖、飢、渴、嫌、牡、忍、訊、耽、紐、杭、鬱、誰、蝶、煉、瓦、鳩、寛、緒、憑、醒、壤、寧、椅、昏、苛、醜、蓄、謙、爪、笠、朴、嘘、咳、眺、頃、煤、戻、緋、壯、訝、裾、篇、瞥、崇、挨、拶、喝、采、瓶、憫、俺、駄、几、鍵、充、愉、股、懷、斎、窮、還、崗、謎、膝、研、銃、厄、絆、殻、唇、桶、据	漠、肖、鉢、闕、茎、懸、汲、爪、呑、鍵、燈、縞、拭、刃、轍、蜜、垣、淵、鈴

			汲、栽、培、蜂、蜜、拳、悠、濡、瀕、淵、鈴、挫、鏽、閃	
ルビの有無	筏、煤、轍、襷以外なし (5.9%)	杭以外なし (ルビ 4.0%)	なし：唇、緒、戻、僕 (ルビ 95.9%)	全てあり (ルビ 100%)
ルビのない漢字	上記でルビがあったもの以外なし	杭以外全てなし	上記でルビがあったもの以外なし	学年別漢字配当表にある漢字のみなし
敬語表現	丁寧語、尊敬語あり (です、ます、よろしい、いらっしゃる、なさる)	丁寧語、謙讓語、尊敬語あり (よろしい、です、ます、いただく、なさる、される)	丁寧語、尊敬語あり (です、ます、よろしい、いらっしゃる、される)	丁寧語、尊敬語あり (です、ます、いらっしゃる、くださる、なさる)
想定読者層	大人 (高校生以上)	中学生～大人 (高校生以上)	大人 (高校生以上)	中学生

4.1. 山崎庸一郎訳 (2005) の分析

始めに山崎庸一郎訳 (2005) では中学校で学ぶ常用漢字が 149 字あり、そのうちの 2% しかルビがあるものがなく、中学校以外で学ぶ常用漢字が 67 字あり、ルビがあるのは 6% に満たなかった。3.1 で述べたように「各学年で学ぶ常用漢字においてルビがなかった場合は、その学年以上を想定読者層として設定していると解釈」し、山崎庸一郎訳 (2005) では想定読者層をルビなしで読める年齢に設定しているとした。敬語は丁寧語が使われており、王子さまがふるさとの星を発って、最初に訪れた星で出会う王さま、二番目の星で出会ううぬぼれ屋の男、四番目の星の実業家、六番目の星の地理学者に使われていた。王さまに対してのみ「君臨していらっしゃるのですか？」(p. 37)、「命令なさってください」(p. 38) 等の尊敬語が用いられていた。以上から、山崎庸一郎 (2005) は想定読者層を大人 (高校生以上) だと設定したと考えられる。

4.2. 永嶋恵子訳 (2013) の分析

次に、永嶋恵子訳 (2013) では、中学校で学ぶ常用漢字が 115 字でルビが 0%、また中学校以外で学ぶ常用漢字が 25 字でルビが「杭」のみで僅か 4% であった。また、敬語表現は、王さまに対して主に使われている。他では、うぬぼれ屋、実業家、地理学者、地球で砂漠を歩いたときの一本の花等に対して丁寧語が使われてはいたが、尊敬語や謙讓語を用いて、相手に敬意を示したり、へりくだる場面は見当たらなかった。また、丁寧語も彼らとの会話のごく一部にしか使用されておらず、対王さまのように会話のほぼ全てに敬語が使用されているということはなかった。王さまに対しては「です」「ます」の丁寧語を始めとして、「命令していただけますか？」(p. 91) で謙讓語、「おどろかさなないでください」(p. 86)、「いわれましたね」(p. 96)、「命令なさってください」(p. 97) で尊敬語が使用されている。これらを踏まえて、永嶋恵子訳 (2013) における「星の王子さま」は、中学生から大人 (高校生以上) を想定読者層としていると判断した。

4.3. 三野博司訳 (2005) の分析

三番目に三野博司訳 (2005) は、180 字の中学レベルの常用漢字にルビは 92%、中学レベル以上の常用漢字は 98 字、ルビは 96% も振られていた。しかし 4 冊の中でも最も文章の中に占める漢字が多く、また読み手が中学生だとすると、ルビがあるといっても難解な漢字が多かった。敬語に関して、丁寧語は、王子さまが「僕」と初対面で会ったとき、さらに他の翻訳者のものと同様に、王さま、うぬぼれ屋、砂漠の花等に使われていた。王さまへの敬語表現は「治めていらっしゃるのですか？」(p. 52)、「望まれる」(p. 56) の尊敬語があった。また、三野博司訳 (2005) では、4 冊の『星の王子さま』の中で唯一、王子さまの花が王子さまに対して「～して下さる？」という、尊敬語が用いられている。これらのことから、三野博司訳 (2005) の想定読者層は大人 (高校生以上) を対象としているのだと考える。

4.4. 内藤濯訳 (1993) の分析

最後に内藤濯訳 (1993) は中学校で学ぶ常用漢字が 57 字、そこ以外で学ぶ常用漢字が 19 字だったが、それら全ての漢字にルビが振られていた。ルビがない漢字としても、小学校レベルの学年別漢字配当表にある漢字のみであった。敬語については王さま、実業家、地理学者に対して丁寧語、王さまとの会話で「支配していらっしゃるんですか」(p. 61)、「御命令なさってくださいませんか」(p. 62)、「見せて下さる」(p. 63)、「陛下らしくなさる」(p. 66) といったように、尊敬語が使用されていた。したがって、内藤濯訳 (1993) における『星の王子さま』は想定読者層を中学生として設定していると判断した。

4.5. 想定読者層の差異の分析まとめ

以上から、4 冊の『星の王子さま』の想定読者層については、山崎庸一郎訳 (2005) が大人 (高校生以上)、永嶋恵子訳 (2013) が中学生から大人、三野博司訳 (2005) が大人、内藤濯訳 (1993) が中学生と、大人を想定読者層に設定した翻訳本が多いという偏った結果になった。また、敬語表現に関しては大きな違いが見られなかった。だが一方で、想定読者層が違うことで、ルビの有無、文章に占める難読漢字の量に違いが生じてきていることが分かった。

5. 文体の差異

分析の結果を、下の表に示す。なお、この章では訳本ごとに節を変えず、まとめて扱う。

	山崎庸一郎訳	永嶋恵子訳	三野博司訳	内藤濯訳
地の文	敬体	常体	常体	敬体
対象	子どもの本	大人の本	大人の本	子どもの本
漢字の多さ	多い	多い	多い	少ない
複文	許容	許容	許容	許容
短文・重文	標準	標準	標準	標準
文体	硬い文体	硬い文体	硬い文体	柔らかい文体

山崎庸一郎訳（2005）は、地の文を全て敬体に行っている。これは、稲垣（2016）によると「子どもの本」ということになるが、本文の漢字の難しさや複文も多くあったことを鑑みると、「硬い文体」に当てはまる。永嶋恵子訳（2013）では、地の文は常体で、「大人の本」となる。本文からはそれなりに漢字が多くあり、また複文も許容されていることから、「硬い文体」といえる。三野博司訳（2005）もまた、常体を採用していた。また本文中にも複文が用いられ、漢字が文章に占める率はとても高かった。このため、「大人の本」かつ、「硬い文体」である。内藤濯訳（1993）は地の文が敬体であり「子どもの本」といえる。本文の平仮名も「子どもの本」としてあえて漢字にせず、平仮名にしている箇所が多く見られたため、「柔らかい文体」といえる。だが、本文内に複文は存在し、短文や重文が多いとは言えなかった。

結果として、文体の差異について、予想とは異なり、複文、短文・重文の項目については差異が見つからなかった。本研究においてこの項目が当てはまらなかった理由としては、翻訳は原文に忠実であるために、あえて短文や重文に文を変えるのは難しいからなのではないかと思われる。また、山崎庸一郎訳（2005）は「子どもの本」であるにも関わらず、「硬い文体」であり、不整合なものとなった。しかし、他3冊においては合致した部分が多く、パターンに沿って、差異があると思われる。

6. 登場人物の人間像の差異

以下は登場人物の呼称を表に示したものである。点灯人と王子さまの人称はないものもあったため、本によっては空欄となっている。

山崎庸一郎訳（2005）の人称表現

	主人公へ	王子さまへ	花へ	王さまへ	うぬぼれ屋へ	実業家へ	点灯人へ	地理学者へ	へビへ	キツネへ
主人公から	わたし	きみ、坊や								
王子さまから	あなた	ぼく	あなた	陛下	あなた	あなた	あなた	あなた	きみ	きみ
花から		あなた	あたし							
王さまから		おまえ、臣下		わし						
うぬぼれ屋から		きみ			わたし					
実業家から		きみ				わたし				
点灯人から							わたし			

地理学者から		おまえ						わたし		
へビから		きみ							わたし	
キツネから		きみ								ぼく

永嶋恵子訳 (2013) の人稱表現

	主人公へ	王子さまへ	花へ	王さまへ	うぬぼれ屋へ	実業家へ	点灯人へ	地理学者へ	へビへ	キツネへ
主人公から	ぼく	きみ								
王子さまから	きみ	ぼく	きみ	陛下	あなた	きみ		あなた	きみ	きみ
花から		あなた	あたし							
王さまから		きみ		わし						
うぬぼれ屋から		きみ			ぼく、おれ					
実業家から		きみ				おれ				
点灯人から		きみ					おれ			
地理学者から		きみ						わたし		
へビから		きみ							ぼく	
キツネから		きみ								ぼく

三野博司訳 (2005) の人稱表現

	主人公へ	王子さまへ	花へ	王さまへ	うぬぼれ屋へ	実業家へ	点灯人へ	地理学者へ	へビへ	キツネへ
主人公から	僕	君、坊や								
王子さまから	きみ	ぼく	あなた	陛下	きみ	きみ	きみ	あなた	きみ	きみ
花から		あなた	あたし							

王さま から		おまえ		わし						
うぬぼれ屋から		君			わたし					
実業家 から		君				俺				
点燈人 から							僕			
地理学 者から		君						わし		
へビか ら		君							おれ	
キツネ から		君								おれ

内藤濯訳 (1993) の人称表現

	主人公 へ	王子さま へ	花へ	王さま へ	うぬぼ れ屋へ	実業家 へ	点灯人 へ	地理学 者へ	へビへ	キツネ へ
主人公 から	ぼく	あんた、き み、ぼっち ゃん								
王子さ まから	きみ	ぼく	きみ	陛下	あんた	きみ	あん た、き み	あなた、 おじさ ん	きみ	きみ
花から		あなた	あたく し							
王さま から		おまえ		わし						
うぬぼれ屋から		おまえさ ん			おれ					
実業家 から		おまえ				おれ				
点燈人 から							おれ			
地理学 者から		あんた						わし		
へビか ら		あんた							おれ	
キツネ から		あんた								おれ

6.1. 山崎庸一郎（2005）の人称表現

4冊の『星の王子さま』の人称表現を比較すると、山崎庸一郎（2005）は他と比べ、王子さまから他の大人たちを「あなた」と丁寧に呼んでおり、友だちになったキツネや関係の深いヘビに対しては「きみ」と呼んでいる。大人と友だちの差は一人称にも表れている。うぬぼれ屋、実業家、地理学者が自分のことを「わたし」と呼ぶことで、「俺」や「僕」に比べ、ある種の大人らしさが生まれていると感じられる。また、ヘビについても「わたし」と一人称をつけることで、『星の王子さま』という物語における、ヘビが重要な役割を担っている人物らしさが表れているのではないだろうか。

6.2. 永嶋恵子訳（2013）の人称表現

永嶋恵子訳（2013）では、王子さまは語り手と花を除いた他の登場人物から、「きみ」と呼ばれている。そう呼ばれることから王子さまの親しみやすさが表れている。特に、王子さまより立場が上である王さまが王子さまを「おまえ」でなく「きみ」と呼ぶのは永嶋恵子訳のみだった。また、ヘビの一人称も「ぼく」となっている。この訳本ではヘビの像がその言葉遣いも相まって、かわいらしい友だちであるかのような表現になっている。永嶋恵子訳では、話し方における王子さまとの心の距離を考えると、キツネと近い位置にあるのではないかと思われる。

6.3. 三野博司訳（2005）の人称表現

次に三野博司訳（2005）については、王子さまの一人称や、王子さまからの呼び掛けは全て平仮名になっている。これは他の人物の人称表現から見ても、あえて平仮名になっているのだと考えられる。そうすることで王子さまの幼さや、幼さゆえの純真さが読み手にも伝わるように表現に工夫がなされている。また、ヘビやキツネの場合はあえて一人称を平仮名にすることにより、その人物像を王子さまと近いものを感じさせる効果があると感じた。また、内藤濯訳と共通しているが、ヘビに「おれ」という力強い一人称が使われ、言葉遣いも「だぜ」「なのさ」と男性的な印象や気取った印象を与えている。また、三野博司訳の特徴として他の訳と比べて「！」が王子さまやキツネ等の会話文で多く使用され、力強さや切実さ等の心の籠った言い回しになっている。

6.4. 内藤濯訳（1993）の人称表現

四番目に、内藤濯訳（1993）に関しては、登場人物の特徴が読み手に分かりやすいような人称や表現がなされている。それが顕著なのは、王子さまの星に咲いた気難しい花の会話表現である。さながらお嬢様のような「あたくし」という一人称や、語尾に「ですわ」「してくださらない」「なのよ」等の気取った雰囲気や言葉遣いにも読み手にはっきりと表現されている。

6.5. 登場人物の人間像の差異の分析まとめ

翻訳者は読み手がその登場人物がどのような性格を持った人物であるかを分かりやすく理解できるように、表現や人称に工夫を凝らしていることがわかる。だからこそ、『星の王子さま』においては、それぞれの翻訳本ごとに提示される人物像の捉え方の違いに応じて、人称表現にも差異が生まれているのだ。

7. おわりに

想定読者層の設定については、偏りはあったものの、想定読者層の違いによって、ルビや、文章内の漢字の量に差異があることが確認でき、予想したパターンに当てはまっていた。文体の差異では、パターンと不一致なところもあったが、おおむね合致していたと言える。また、人称表現・人物像についても、人物像の捉え方の違いで、人称表現の差異ができることがわかり、差異パターンが存在すると言える。このことから、原文の翻訳における差異には、想定読者層、文体、人物像の3点が関連する差異パターンがあるということが分かった。

本研究では、翻訳における差異のパターンを分析したが、同時にいくつかの課題も見つかった。

1つ目に他の作品の翻訳本では、上記の差異パターンに当てはまらない可能性がある点である。本研究では『星の王子さま』のみの原文を対象にしており、他の作品の原文まで分析はできなかった。そのため、今後の研究では、他の原文でも差異パターンが当てはまるかどうかを、他作品の原文の翻訳本を用いて分析することで、今回の分析結果とずれがあるかを調査していく必要がある。

2つ目に想定読者層の設定分析について、小学生、中学生、大人を分ける必要があったため、前提条件を一般的な教育における漢字の学習進捗度に設定した点である。文部科学省が提示している義務教育の学習基準を参考にしたが、明確に学習する漢字が示されている小学校と違い、中学校に関しては、学習する漢字の数は決められてはいるものの、はっきりした漢字の目安がなく、どの常用漢字をどの学年に学ぶかはそれぞれの中学校に委ねられている。そのため、日本漢字能力検定の基準をもとにするしかなかった。しかし、当然例外も存在している。小学生や中学生だから、そのレベルより難しい漢字が読めないということはない。本を読めば読むほど、難易度の高い漢字でもいつの間にか読めるようになっていくことはよくあることである。

3つ目に想定読者層に偏りがあった点である。分析した4冊の本は少なくとも漢字を十分に読める年齢を想定されており、想定していた小学生を対象とする本は、残念ながら見つからなかった。そのため、想定読者層に小学生を設定したものについては分析が欠けているといえる。

4つ目に想定読者層における敬語表現に関して、本研究においては大きな違いが見られなかった点である。これは3つ目の問題に起因したもののだが、本研究では想定読者層に関して、敬語表現は中学生以上を対象としたものと設定した。これにより、想定読者層に小学生を設定したものがなかったことで、敬語表現がなかった場合とある場合の比較ができなかった。この改善点としては、想定読者層が小学生や幼児を設定した絵本等を分析すれば、また違った結果が表れるのではないかと考えられる。

参考文献

稲垣直樹. (2016). 『翻訳技法実践論——『星の王子さま』をどう訳したか』平凡社.